

健康と文化の森地区浸水対策 基本計画

2017年(平成29年)3月

藤 沢 市

はじめに

近年、本市西北部に位置する「健康と文化の森地区」では集中豪雨に伴う浸水被害が度々発生しており、2014年(平成26年)10月に接近した台風18号では、最大で1時間に77mm(観測地：御所見)の記録的な降雨により、藤沢慶応前郵便局を中心とする広い範囲で深刻な被害が発生した。

同地区周辺で降った雨は、四方の高台から地盤高が低い浸水箇所に流れ集まるものの、排出先となる一級河川小出川の川幅は非常に狭いうえ改修には相当な時間を要する状況であるほか、地区周辺は大半を市街化調整区域が占めており開発許可制度や地区計画等により一部箇所には雨水管が整備されているが、小出川の排水能力に合わせて段階的に整備したため排水能力が不足している。

同地区は、藤沢市都市マスタープランにおいて市内にある6つの都市拠点の1つ「学術文化新産業拠点」に位置付けているほか、いずみ野線延伸計画において新駅設置の構想、(仮称)湘南台寒川線整備計画、湘南慶育病院の開院が見込まれているなど重要な地区であり、早急に浸水対策を推し進める必要がある。

以上の経緯から、同地区周辺を「相模川水系小出川・千の川河川整備計画」(平成27年4月・神奈川県策定)と同じ時間雨量50mm対応とし、浸水箇所の被害軽減を図るため「健康と文化の森地区浸水対策基本計画」を策定した。

【健康と文化の森地区航空写真】



目次

第1章 地区の概要

第1節	健康と文化の森地区	P. 1
	・地区の位置	P. 1
	・地区の特性	P. 1
	・人口推移	P. 2
	・土地利用構成	P. 2
	・地区の河川	P. 3
	・降雨状況	P. 3
第2節	地区のまちづくり	P. 4
	・地区の主な経過	P. 4
	・藤沢市都市マスタープラン	P. 5
	・藤沢市西北部地域総合整備マスタープラン	P. 7
	・いずみ野線延伸計画	P. 7
	・(仮称)湘南台寒川線整備計画	P. 8
	・特区の指定	P. 9
	・湘南慶育病院	P. 10

第2章 地区の状況と課題

第1節	浸水被害状況	P. 11
	・過去の浸水箇所	P. 14
	・シミュレーションによる想定浸水範囲	P. 15
第2節	河川の状況と課題	P. 16
	・河川整備計画	P. 16
	・河川の流下能力	P. 17
第3節	下水道の状況と課題	P. 18
	・雨水幹線と地区の設定	P. 18
	・雨水管の流下能力	P. 19
第4節	雨水調整池の状況	P. 20
第5節	主な浸水原因	P. 21

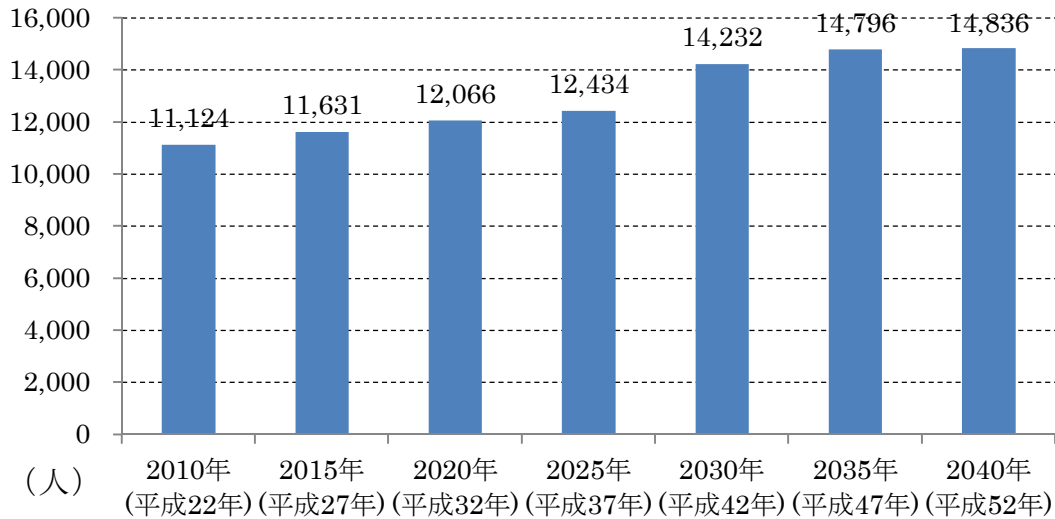
第3章 浸水対策

第1節	浸水対策の方針	P. 22
第2節	防災対策	P. 23
	・既設調整池改良 (A地区)	P. 24
	・健康の森への自然型雨水調整池新設 (C地区)	P. 24
	・その他の雨水調整池新設	P. 25
	・雨水幹線および雨水管の整備・改良	P. 25
第3節	減災対策	P. 26
	・路面排水の排除	P. 26
	・地区外からの排水遮断	P. 26
	・水路・側溝の維持管理	P. 27
第4節	全体計画	P. 28
	・計画期間	P. 28
	・概算事業費	P. 28

[人口推移]

健康と文化の森地区を含む遠藤地区の人口は緩やかに増加しており、今後も増加が見込まれる。

【遠藤地区の人口推移】



資料：藤沢市将来人口推移(平成25年度)をもとに作成

[土地利用構成]

遠藤地区の面積は約456haであり、地区の7割以上を市街化調整区域が占めているほか、農地や山林など多くの緑が維持・保全されており、農地を含む自然的土地利用が地区全体の約4割を占めている。

近年は、農地や山林が減少し荒地がみられるほか、工業・流通地が増加傾向にある。

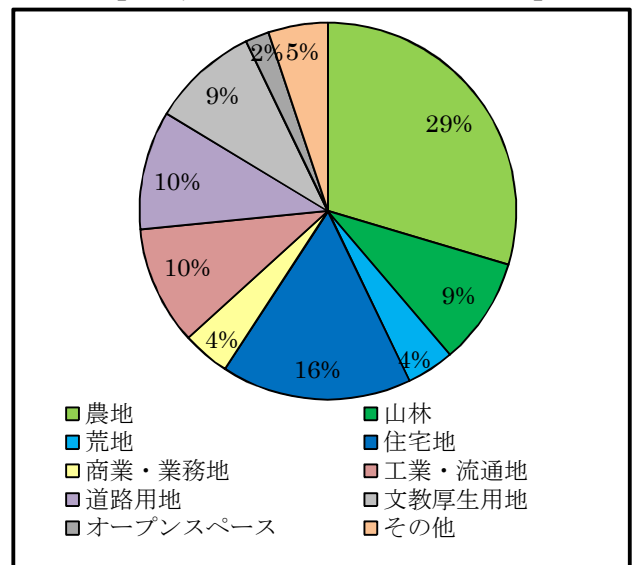
【農村風景】



【農地風景】



【遠藤地区土地利用構成割合】



資料：都市計画基礎調査をもとに作成

※ 数値は四捨五入のため合計が100%にならない。

[地区の河川]

健康と文化の森地区中央を流れる「小出川」は神奈川県が管理する一級河川で、遠藤笹窪緑地などから湧き出した水が健康と文化の森地区内を流れ、相模湾近くで一級河川相模川に合流する。

普段の水量は少なく落ち着いた水辺の風景を演出しており、川沿いには緑あふれる遊歩道が茅ヶ崎市に向け伸びている。

【小出川の風景】



[降雨状況]

近隣の観測地点における最大時間雨量は次のとおりである。

【近隣の最大時間雨量】

年	観測地点別最大時間降雨量(月日・降雨量)					
	御 所 見		海 老 名		辻 堂	
2010年(平成22年)	12月 3日	42.0 mm	12月 3日	50.5 mm	4月 28日	40.0 mm
2011年(平成23年)	8月 19日	41.0 mm	8月 26日	27.5 mm	6月 11日	32.0 mm
2012年(平成24年)	7月 14日	58.0 mm	7月 14日	47.5 mm	10月 17日	29.0 mm
2013年(平成25年)	9月 15日	58.0 mm	4月 6日	83.5 mm	9月 4日	44.5 mm
2014年(平成26年)	10月 6日	77.0 mm	10月 6日	53.5 mm	10月 6日	44.5 mm

第2節 地区のまちづくり

遠藤地区は「人と自然が生きづくまち」を将来像とし、健康と文化の森地区を中心とした新たな都市環境の形成、魅力あるまちの創造を目標に周辺都市や地域との連携強化、まちのにぎわいと活気を高めるための公共交通導入の実現のほか、本市の三大谷戸の1つである遠藤笹窪緑地をはじめ、里山などの豊かな自然環境を共有財産とし、将来にわたり維持・保全を図ると共に地域の資源を活かした観光の充実をめざしている。

健康と文化の森地区内においては、これまでに開発許可制度や地区計画等を活用し、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(以下、「慶應義塾大学SFC」という。)等が開設されたほか、遠藤打越地区で土地区画整理事業が行われた。

また、現在は湘南慶育病院の建設が進められているほか、地区の一部については2016年(平成28年)11月に市街化区域へ編入された。

[地区の主な経過]

1985年(昭和60年)	健康と文化の森構想の展開
1990年(平成2年)	慶應義塾大学SFC開設
1999年(平成11年)	藤沢市都市マスタープラン策定
2001年(平成13年)	慶應義塾大学看護医療学部開設
2005年(平成17年)	藤沢市西北部地域総合整備マスタープラン策定
2006年(平成18年)	慶應藤沢イノベーションビレッジ開設
2008年(平成20年)	遠藤打越地区土地区画整理事業着手
2011年(平成23年)	藤沢市都市マスタープラン改定
2012年(平成24年)	遠藤打越地区土地区画整理事業完了
2013年(平成25年)	さがみロボット産業特区に指定 京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区に指定
2015年(平成27年)	健康と文化の森地区まちづくり基本構想策定 湘南慶育病院建設着手
2016年(平成28年)	健康と文化の森地区まちづくり基本計画策定 地区の一部を市街化区域へ編入

【慶應義塾大学SFC】



【遠藤笹窪緑地】



[藤沢市都市マスタープラン]

「藤沢市都市マスタープラン」では、健康と文化の森地区を市内にある6つの都市拠点の1つ「学術文化新産業拠点」に位置付けており、慶應義塾大学SFCの持つ情報・環境・医療分野等の技術集積や学術・研究機能を核に産・学・公連携によるビジネスの育成や国際交流拠点の形成をめざし、広域にわたる本市の新しい活力創造の場としている。

・遠藤地区のまちづくり基本方針(藤沢市都市マスタープランより抜粋)

《土地利用》

- ① 「文化の森」における教育・学術・研究機能の充実
- ② 緑豊かな自然環境と融合した「健康の森」の創出
- ③ 生産性向上に向けた農地の保全・活性化と生産基盤整備
- ④ 営農・集落環境の維持と生活関連施設の整備による生活環境の向上
- ⑤ 身近な生活を支える都市サービス機能集積による地区中心拠点の形成
- ⑥ 既成市街地における良好な生産環境や居住環境の形成

《交 通》

- ① 広域的な交通拠点と連携する交通ネットワークの形成
- ② 地域内の連絡を強化する道路網の形成
- ③ 公共交通の利便性向上

《水 ・ 緑》

- ① 河川や緑等の景観保全を目的とした「水と緑のベルトゾーン」の形成

《景観・防災・都市づくり等》

- ① 「健康と文化の森」を中心とした質の高い拠点空間の形成
- ② 豊かな自然景観の維持・保全
- ③ 河川における安心・安全の向上

【遠藤宮原線】



【路線バス】



【藤沢市西北部地域総合整備マスタープラン】

「藤沢市西北部地域総合整備マスタープラン」では、健康と文化の森地区が位置する西北部地域のめざす将来像を「農・工・住が共存する環境共生都市」とし、これまでの農業地域の位置づけに加え大学等知的社会基盤を活用する研究開発機能等を地域特性である田園・農業空間に導入した環境共生型の都市をめざしている。

また、健康と文化の森地区を重点プロジェクトの「活力創造拠点」「地区中心拠点」と位置づけ、慶應義塾大学SFCを中心とした学術・文化・情報・福祉・医療等都市機能の集積、産・学・公連携の産業創出や研究開発機能の集積をねらいとしている。

【いずみ野線延伸計画】

「いずみ野線延伸の実現に向けた検討会」（2012年(平成24年)3月)では、湘南台駅から西へ向け慶應義塾大学SFC付近までの区間を第一期整備区間とし延伸の方向性が示された。

また、「交通政策審議会」（2016年(平成28年)4月)において、湘南台―倉見間の延伸は課題があるものの神奈川県中央部と横浜市中心部や都心部とのアクセス・利便性の向上を期待する路線と位置付けられた。

なお、第一期整備区間として慶應義塾大学SFC付近にはB駅(新駅)の設置が想定されている。

【いずみ野線延伸計画図】

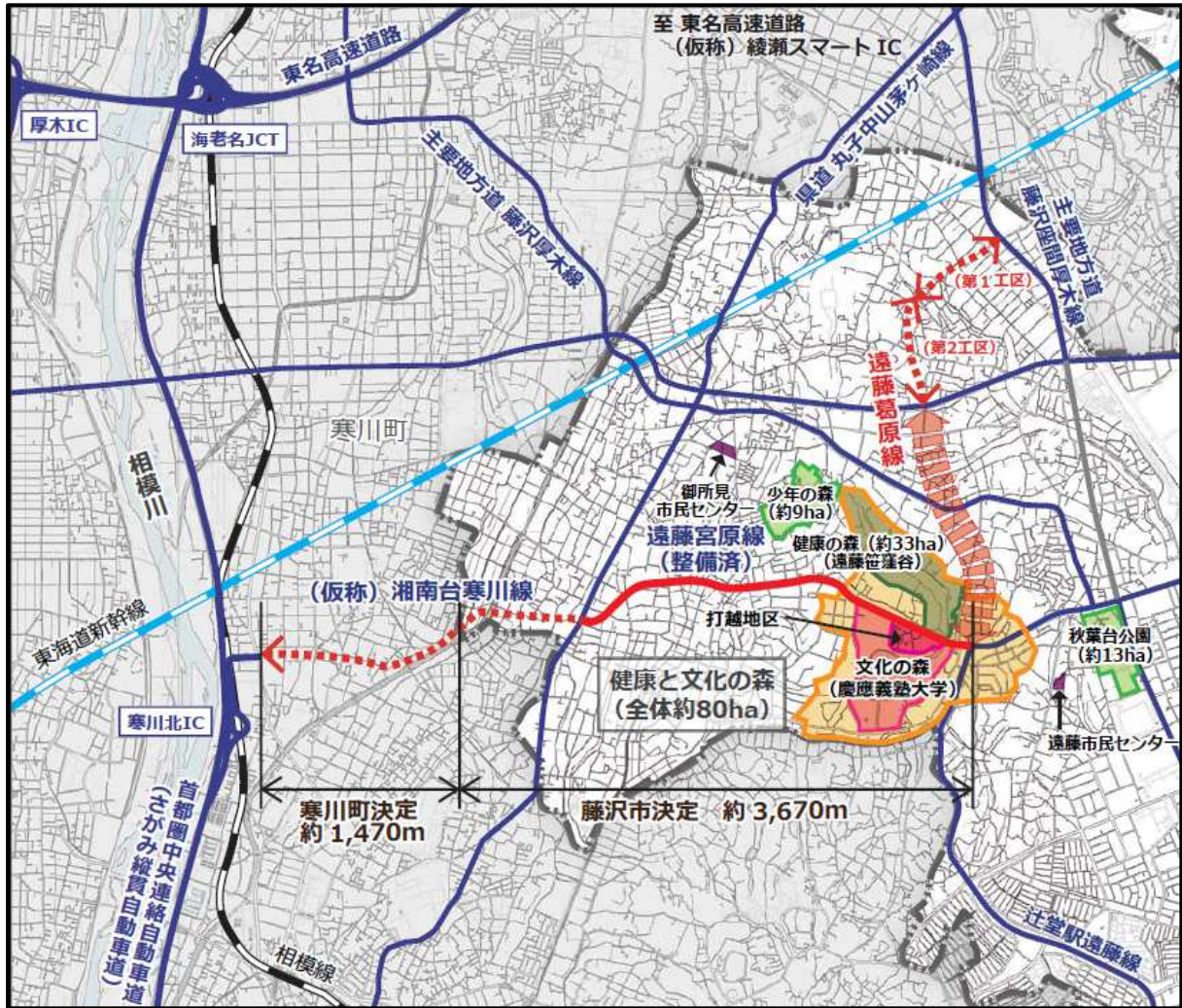


資料：健康と文化の森地区まちづくり基本計画(2016年3月)

〔(仮称)湘南台寒川線整備計画〕

(仮称)湘南台寒川線は、健康と文化の森地区内を横断する遠藤宮原線からさがみ縦貫道路寒川北インターチェンジを結ぶ新たな東西軸であり、湘南地域の内外の連絡を強化する主要な幹線道路として神奈川県により事業が進められている。

【(仮称)湘南台寒川線位置図】

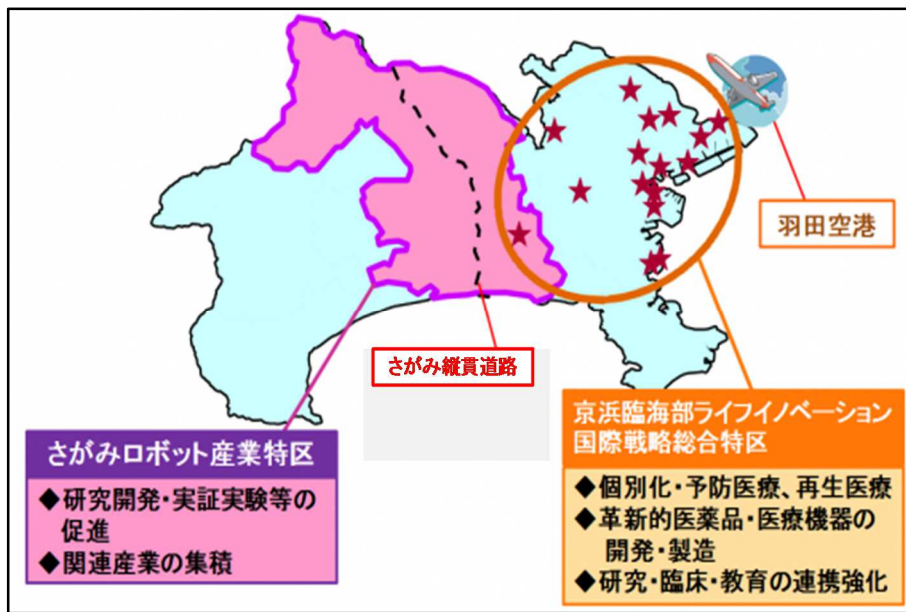


[特区の指定]

藤沢市は「さがみロボット産業特区」に、慶應義塾大学SFCは「京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区」にそれぞれ指定されている。

この指定により、関連した医療・健康や介護の分野についての研究開発施設，企業の集積による地域の活性化，先端技術を活用した地域の健康・医療のまちづくりの展開などが期待されている。

【神奈川県内の特区の位置】



資料：神奈川県ホームページをもとに作成

・さがみロボット産業特区

さがみ縦貫道路を中心とする10市2町を区域とし，生活支援ロボットの実用化や普及を促進していくことにより少子高齢化社会における介護や災害時の捜索・救助など，身体的・精神的負担等を軽減するとともに，生活支援ロボットの実用化を担う企業の集積を進め実証環境の充実を図るなど，県民満足度を高めていくことを目的としている。

・京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区

個別化・予防医療時代に対応した，グローバル企業による革新的衣料品・医療機器の開発・製造と健康関連産業の創出を目標に，慶應義塾大学SFCでは漢方・東洋医学に関するエビデンス解明のためのビッグデータ解析事業の実施，（仮称）東西医療センターを設置し，漢方，中医及び東西総合医療の育成，研究，臨床の実施に取り組んでいる。

【湘南慶育病院】

健康と文化の森の一翼を担う「健康の森」では、2017年(平成29年)秋の開院に向け「湘南慶育病院」の建設が進められている。

本病院は、地域に向けて急性期医療を提供するとともに、慶應義塾大学SFCのヘルスサイエンス関連の研究者と協力して医療関係のビッグデータを収集・解析し、また高齢化社会を見据えた東西統合医療や抗加齢医療の研究を推進していく施設である。

【病院概要】



病院所在地	神奈川県藤沢市遠藤4360
敷地・建物概要	敷地面積:30,579.20m ² 建物面積:3,859.17m ² 延床面積:15,412.60m ²
病床数	230床
診療科(予定)	総合診療内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓・内分泌・代謝内科 神経内科、外科、消化器外科、整形外科、眼科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科 リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

資料：医療法人社団健育会資料をもとに作成

第2章 地区の状況と課題

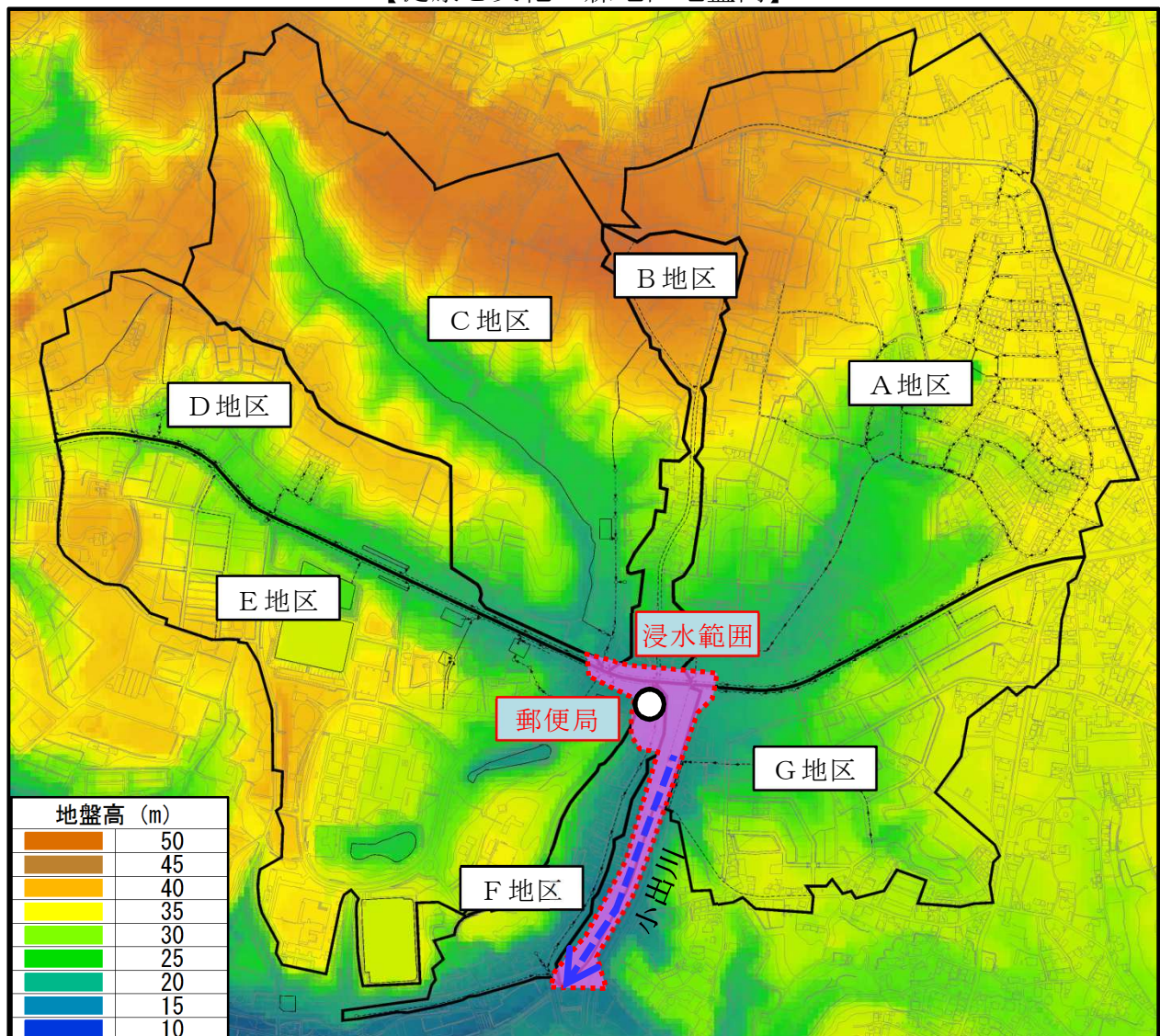
第1節 浸水被害状況

近年、健康と文化の森地区内では集中豪雨に伴う浸水被害が度々発生しており、2014年(平成26年)10月に接近した台風18号では、最大で1時間に77mm(観測地：御所見)の記録的な降雨により藤沢慶応前郵便局を中心とする広い範囲で深刻な被害が発生した。

同地区周辺で降った雨は、四方の高台から地盤高が低い浸水箇所に流れ集まるものの、排出先となる一級河川小出川の川幅は非常に狭いうえ改修には相当な時間を要する状況であるほか、地区周辺は大半を市街化調整区域が占めており開発許可制度や地区計画等により一部箇所には雨水管が整備されているが、小出川の排水能力に合わせて段階的に整備したため排水能力が不足している。

また、地球温暖化等の影響によりゲリラ豪雨の増加や台風の巨大化など被害が拡大することが危惧されている。

【健康と文化の森地区地盤高】



【藤沢慶応前郵便局付近(通常時)】



【藤沢慶応前郵便局付近(2014年10月・台風18号接近時)】



※藤沢慶応前郵便局横に設置された水位計では浸水深さ96cmを記録。

【小出川最上流部(通常時)】



【小出川最上流部(2014年10月・台風18号接近時)】



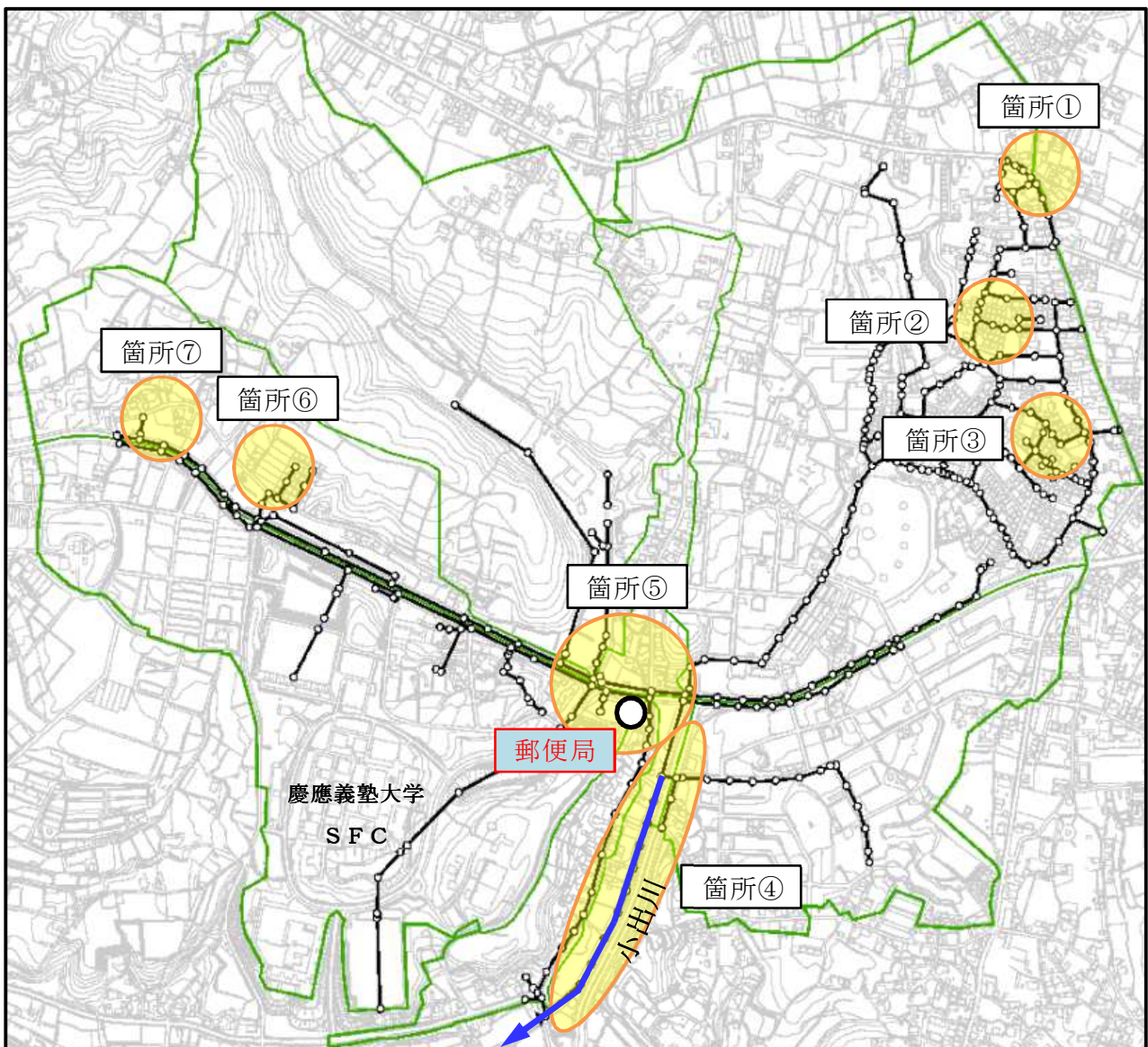
[過去の浸水箇所]

健康と文化の森地区周辺における主な過去の浸水箇所は下記の浸水箇所図で示した7箇所であり、床上浸水や床下浸水を伴う被害も確認されている。

・浸水概要

- | | | | |
|-----|-----------|-----|-----------|
| 箇所① | 道路冠水 | 箇所⑤ | 床上浸水・道路冠水 |
| 箇所② | 床下浸水・道路冠水 | 箇所⑥ | 道路冠水 |
| 箇所③ | 床下浸水・道路冠水 | 箇所⑦ | 道路冠水 |
| 箇所④ | 床上浸水・道路冠水 | | |

【浸水箇所図】



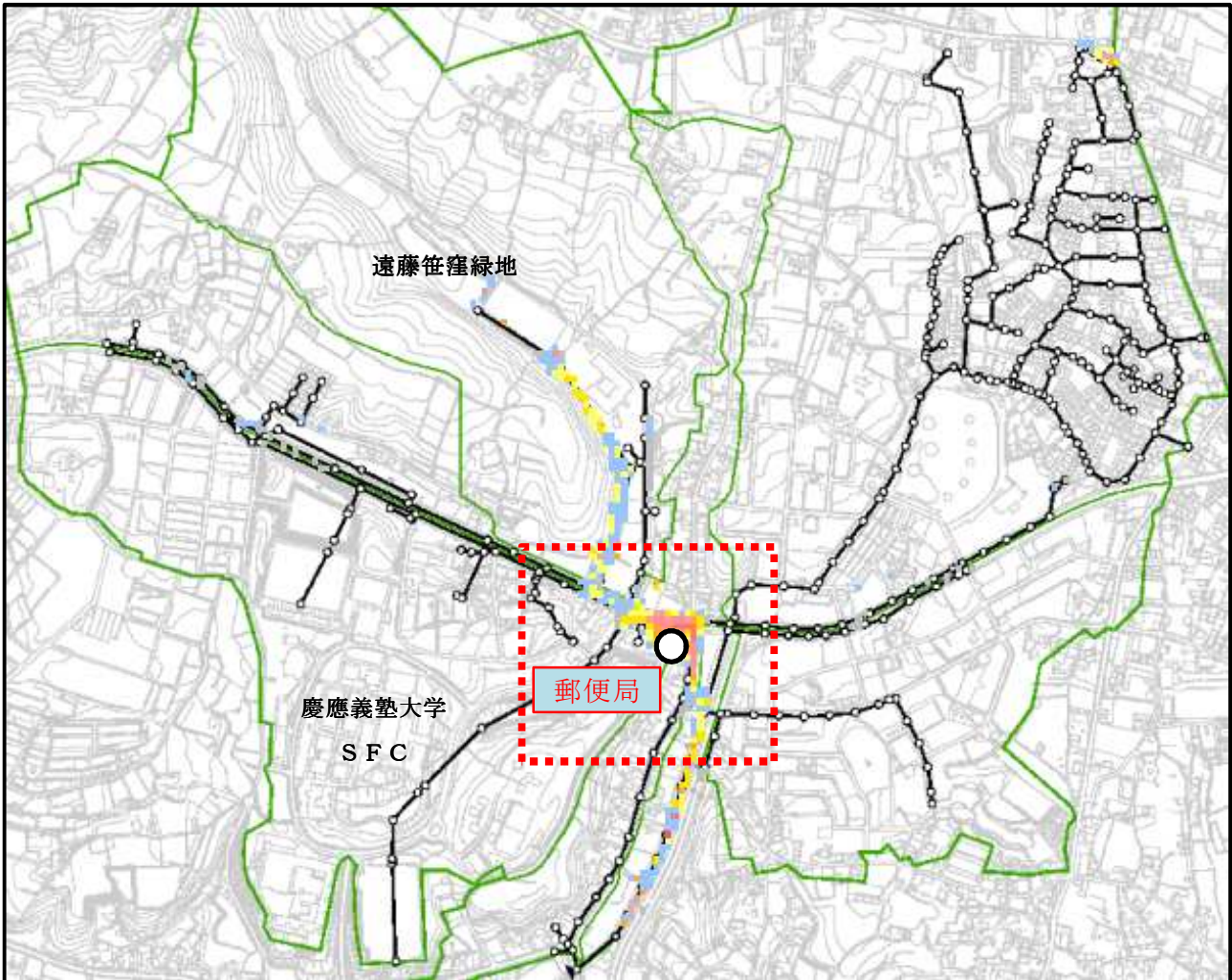
資料：藤沢市土木計画課調べ

[シミュレーションによる想定浸水範囲]

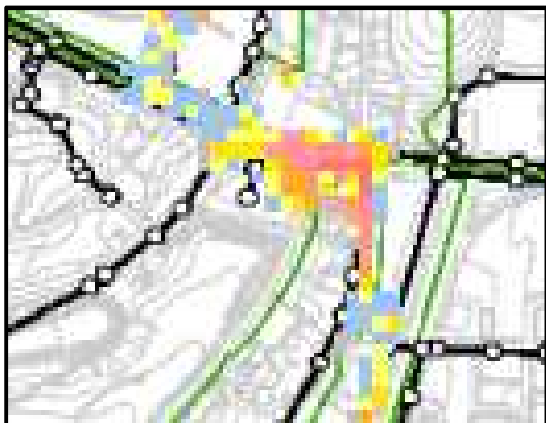
シミュレーションにより、現況の施設に対して小出川の計画雨量と同じ時間雨量50mm相当の降雨が生じた場合における想定浸水範囲を検証した結果、遠藤笹窪緑地から小出川にかけて範囲を中心に地区全体で3.64haの浸水が発生するほか、藤沢慶応前郵便局周辺では床上浸水相当となる深さ50cm以上の浸水が確認された。

なお、藤沢慶応前郵便局付近での浸水の最大深さは90cm程度である。

【想定浸水範囲図】



【拡大図】



【浸水凡例】

凡		例		浸水面積 (ha)	
	1.00 m ~			0.00	0.38
	0.90 m ~	1.00 m		0.00	
	0.80 m ~	0.90 m		0.01	
	0.70 m ~	0.80 m		0.07	
	0.60 m ~	0.70 m		0.16	
	0.50 m ~	0.60 m		0.14	1.20
	0.40 m ~	0.50 m		0.18	
	0.30 m ~	0.40 m		0.38	
	0.20 m ~	0.30 m		0.64	2.06
	0.10 m ~	0.20 m		1.34	
	0.05 m ~	0.10 m		0.72	
合計				3.64	3.64

資料：健康と文化の森地区浸水対策検討委託(2016年3月)

第2節 河川の状況と課題

健康と文化の森地区周辺は、相模川の一次支川である一級河川「小出川」の流域に属しており、小出川における一級河川区間は諸之木橋から富士見橋付近(茅ヶ崎市)までの約11kmである。

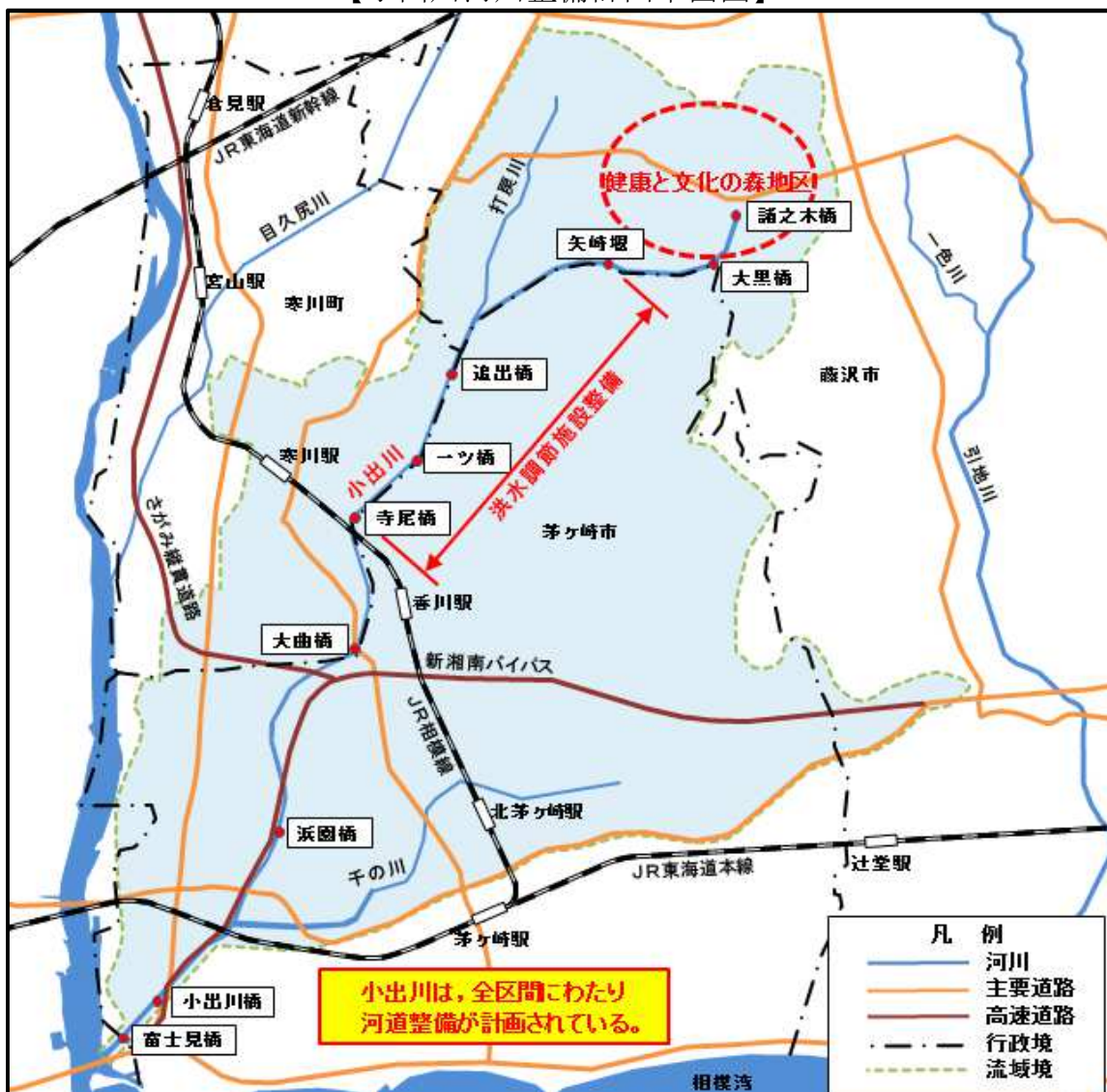
健康と文化の森地区からの雨水排水は、慶應義塾大学SFCが位置する地区南西部からの排水を吐口により大黒橋付近で、それ以外の地区からの排水を菖蒲沢境地区土地区画整理事業区域から小出川に接続する水路により諸之木橋付近で、それぞれ排出している。

[河川整備計画]

小出川河川整備計画においては、全区間にわたり護岸工事・橋梁架替工事・河道掘削工事等の河道整備が計画されているほか、寺尾橋から矢崎堰までの区間において洪水調節施設の整備が計画されている。

また、河川整備計画を達成するための対象期間については、概ね30年と示されている。

【小出川河川整備計画平面図】



資料：相模川水系小出川・千の川河川整備計画(平成27年4月・神奈川県策定)をもとに作成

【河川の流下能力】

小出川最上流部の川幅は非常に狭く、計画流量に対して流下能力が著しく不足しているほか、周辺の土地利用促進により小出川上流域に広がっていた農地や山林は減少傾向にあるため、土地が持つ保水機能の低下が危惧されている。

なお、河川整備計画による整備が完了するまでには時間を要するため、神奈川県では2016年度(平成28年度)から小出川上流域における河川の暫定改修工事を実施している。

【小出川最上流部】



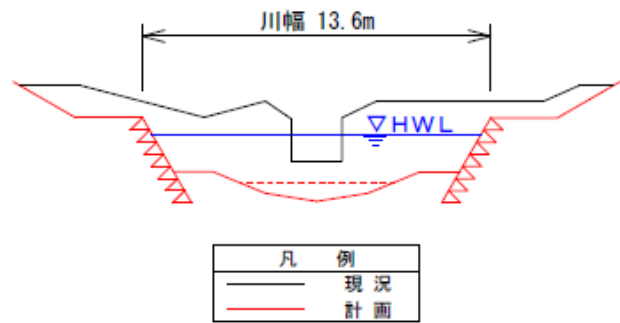
【大黒橋付近】



【暫定改修工事】



【計画河川断面】



大黒橋下流付近(10.0km)

資料：河川整備計画をもとに作成

第3節 下水道の状況と課題

健康と文化の森地区周辺は、相模川流域処理区小出川左岸第一地区及び第二地区、同右岸第一地区に属している。

慶應義塾大学SFC周辺の一部箇所や地区北東に位置する菖蒲沢境地区土地区画整理事業区域内には、開発許可制度や地区計画等により雨水管が整備されているが、小出川の排水能力に合わせて段階的に整備した雨水管のため排水能力が不足している。

また、雨水管が未整備の箇所では、水路や側溝による雨水排水の処理を行っている。

〔雨水幹線と地区の設定〕

健康と文化の森地区内の雨水排水は5系統の雨水幹線により流れ、小出川雨水1号幹線に集約された後に小出川最上流部にあたる諸之木橋付近で排出する計画である。

なお、浸水対策検討にあたっては、健康と文化の森地区を含む小出川の流域約224haを対象とし、雨水幹線等の主たる系統ごとに地区を7つに分け、地区の特性を十分に考慮した浸水対策の構築を図ることとした。

【対策地区平面図】

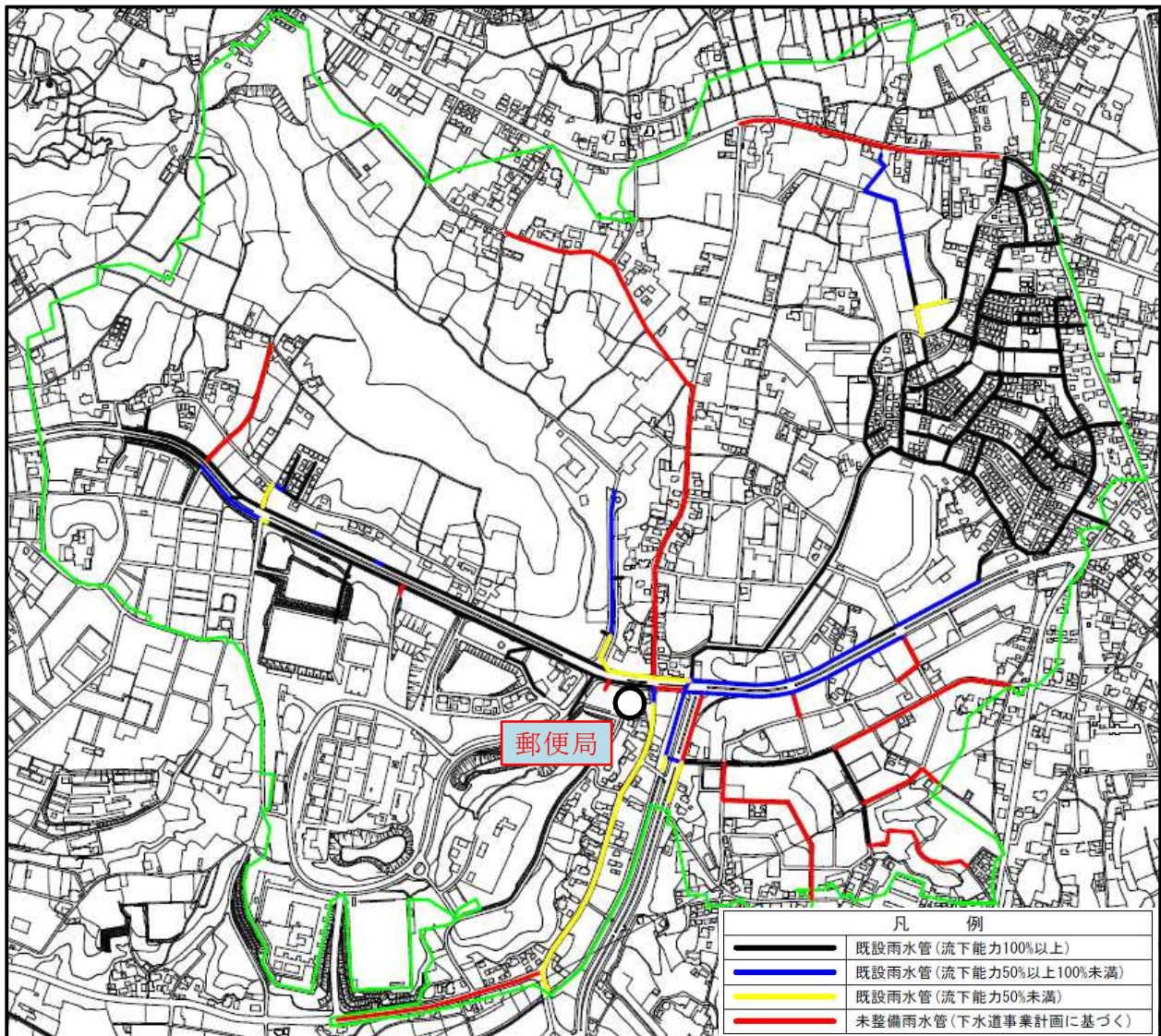


[雨水管の流下能力]

健康と文化の森地区周辺に埋設されている既設雨水管を対象に、管の流下能力と将来の流下量を比較したところ、多くの箇所で管の能力不足が確認された。

特徴としては、雨水の排出先である小出川に近づく下流域ほど能力不足が深刻な状況であるため、未整備雨水管の整備や暫定雨水管の改良などの早期実施が必要である。

【雨水管流下能力図】



【藤沢慶応前郵便局】



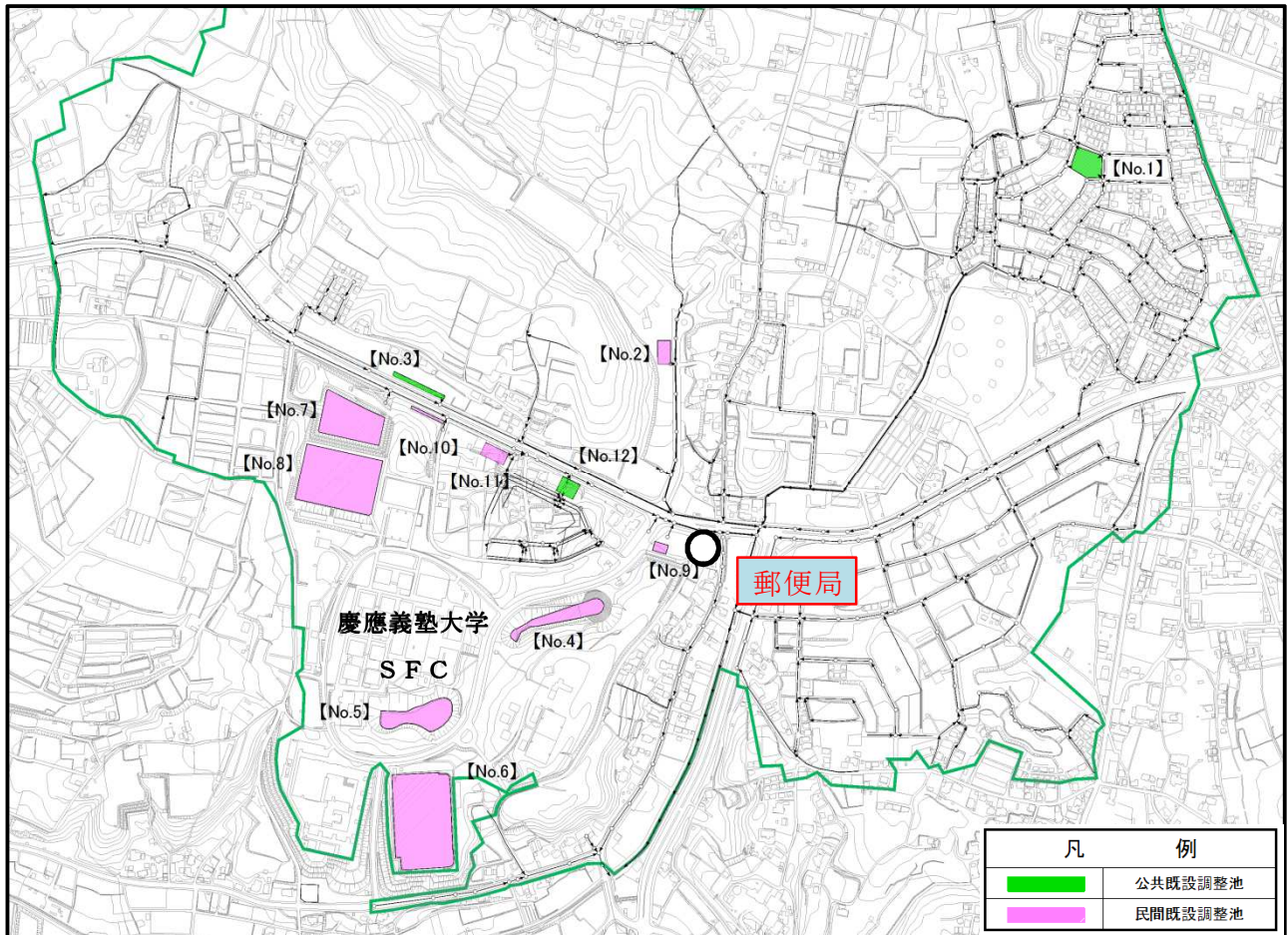
【マンホールからの溢水状況】



第4節 雨水調整池の状況

健康と文化の森地区周辺の雨水調整池については、下水道施設と同様に開発許可制度や地区計画等を活用しながら施設整備を進め、公共施設3箇所、民間施設9箇所、公共・民間合わせて12箇所存在する。

【雨水調整池位置図】



【貯留能力表】

※No.2 は増設分含む。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種別	公共	民間	公共	民間	民間	民間	民間	民間	民間	民間	民間	公共
既設調整池貯留量	2,800	2,800	3,000	3,900	3,700	700	2,900	500	200	700	700	900

【No.3 調整池】



【No.5 調整池】

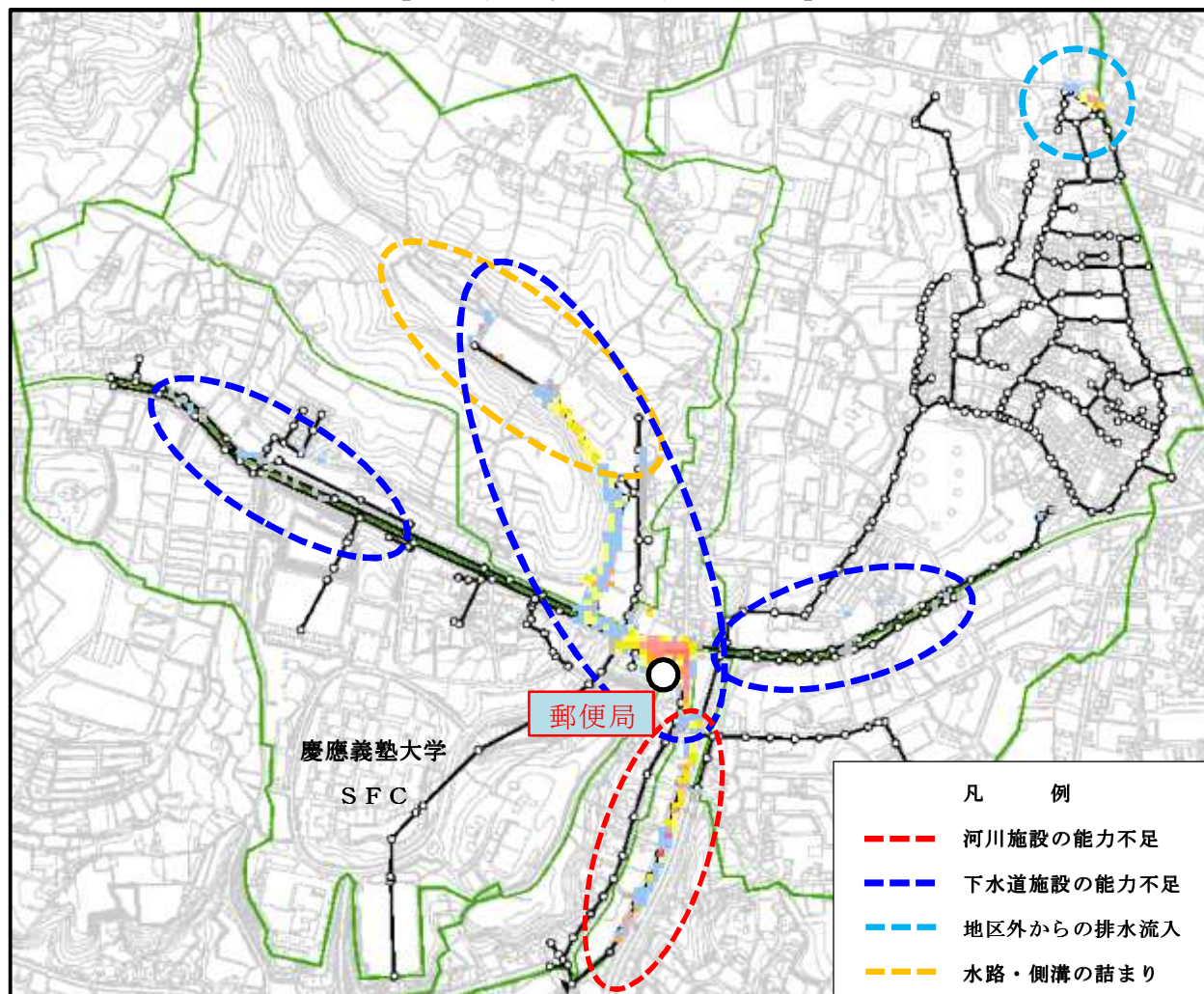


第5節 主な浸水原因

シミュレーションによる調査から、主な浸水原因として河川施設や下水道施設の能力不足が確認された。

雨水の排出先となる小出川の川幅は非常に狭いため、抜本的な解決には河川の改修や洪水調節施設の整備が必要であり、また、健康と文化の森地区周辺に埋設されている雨水管の排水能力が不足しているほか、地区外からの排水流入や水路・側溝の詰まりが原因である浸水も確認された。

【想定浸水範囲図(浸水原因)】



【浸水原因一覧表】

浸水原因	分類	対策
河川施設の能力不足	断面不足	河川改修・洪水調節施設整備
下水道施設の能力不足	雨水管の未整備	雨水管整備
	既設雨水管の能力不足	雨水調整池新設 既設調整池改良・民間調整池活用
	路面排水の増加	道路側溝の整備・改良
地区外からの排水流入	別排水区からの流入	既存施設の改良による流入遮断
水路・側溝の詰まり	土砂・落ち葉の混入	維持管理の徹底

第3章 浸水対策

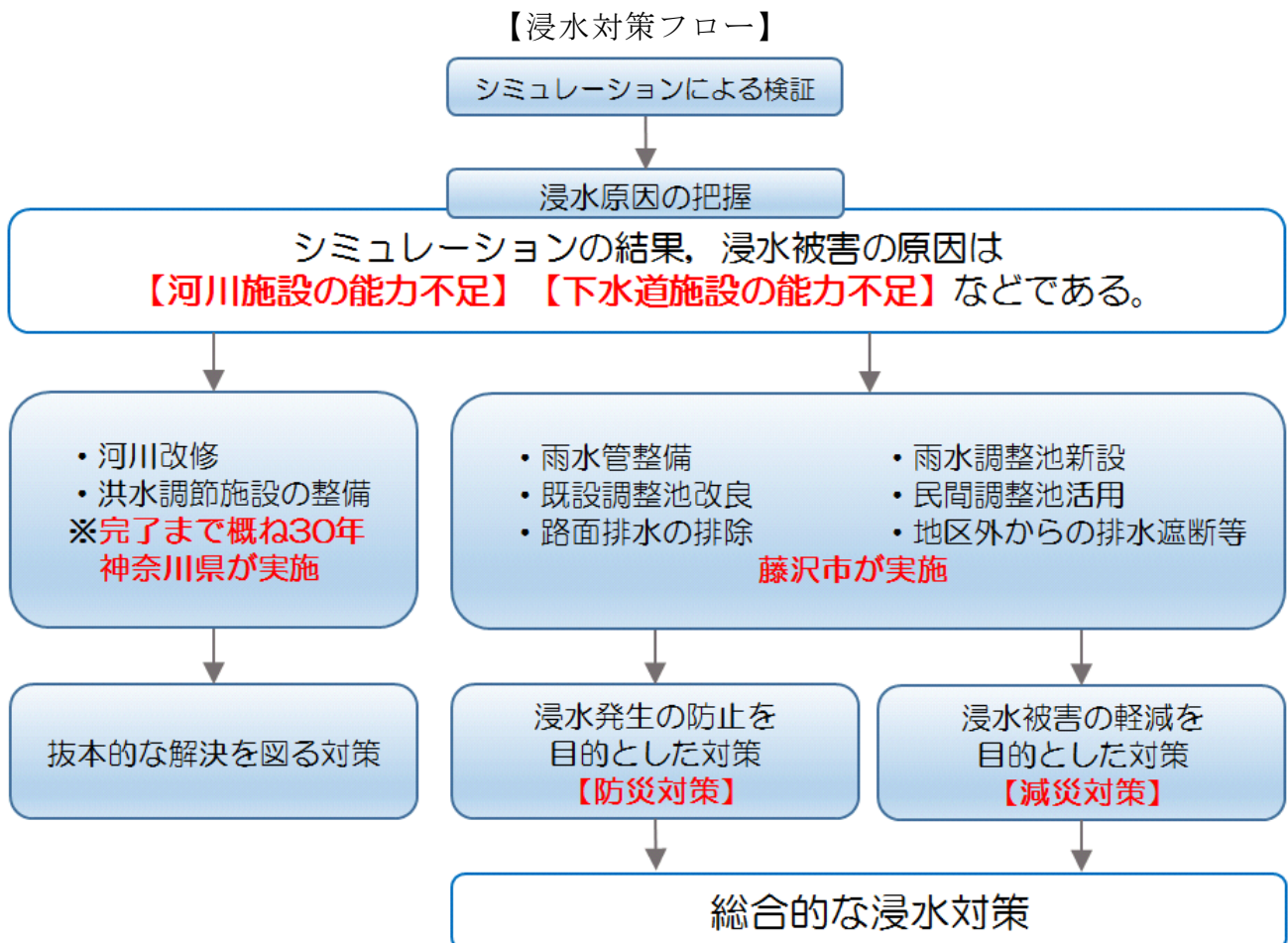
第1節 浸水対策の方針

浸水被害の抜本的な解決には小出川の改修などが必要であるが、河川整備計画において改修が達成されるまでの対象期間が概ね30年と示されている状況から、浸水対策については雨水の貯留を基本とし、藤沢慶応前郵便局付近の被害軽減を目的に藤沢市独自の取り組みとして、【防災対策】と【減災対策】をそれぞれ実施する。

計画降雨については、「相模川水系小出川・千の川河川整備計画」（平成27年4月・神奈川県策定）と同じ時間雨量50mm対応とする。

また、地区外からの排水遮断や徹底した水路・側溝の維持管理、超過降雨時に貯留しきれない雨水への対策を併せて図る。

なお、健康と文化の森地区は身近な自然と触れあえる貴重な空間であり、人々に安らぎをもたらす場所であるため、浸水対策の検討にあたっては景観や環境に配慮し、可能な限り緑地保全を心掛ける。



第2節 防災対策

防災対策は、小出川流域内における貯留能力の増加を目的とした雨水調整池の新設・改良のほか、路面排水を集め効率的に調整池へ取り込むことを目的とした雨水幹線等の整備・改良により、浸水発生を防止するための対策である。

貯留量については、計画降雨時において小出川の流域約224haからの流れ出る排水約69,800m³(流出雨水量)に対し、現状の河川や雨水管により約15,700m³(許容排出量)を流すことができ、また、既に整備されている調整池により約22,100m³(既存調整池貯留量)貯留できることから、新たに約32,000m³相当分が必要となる。

必要な貯留量は、可能な限り7つに分けた地区毎に対応することが好ましいが、用地等の条件から地区内での対応が可能なのはA地区とC地区であり、貯留が困難な排水については浸水範囲に近接する適地に新たな雨水調整池を設け貯留を図る。

【貯留量計算表】 (m³)

	A地区	B地区	C地区		D地区	E地区	F地区	G地区	合計
			(緑地部)	(市街部)					
流域面積(ha)	62.6	12.2	38.3	8.7	22.4	47.1	7.2	25.8	224.3
流出雨水量:A	18,400	3,100	11,300		6,600	19,000	2,900	8,500	69,800
許容排出量【ピーク時】:B	5,800	1,100	4,300		2,100	0	0	2,400	15,700
既存調整池貯留量:C	2,800	0	2,800		3,000	13,500	0	0	22,100
必要貯留量:A-B-C	9,800	2,000	4,200		1,500	5,500	2,900	6,100	32,000
地区内対応可否	△	□	○		□	□	□	□	
対応可能貯留量	1,600	0	4,200		0	0	0	0	

- 対応可能
- △ 一部対応可能
- 新たな用地取得を要する

[既設調整池改良(A地区)]

健康と文化の森地区周辺の既設調整池における稼働状況や構造等を検証し、施設を改良することにより新たに約1,600 m³の貯留量増加を図る。

【菖蒲沢境地区調整池】



[健康の森への自然型雨水調整池新設(C地区)]

健康の森から小出川に流れる雨水排水の貯留を目的とし、健康の森内の市有地である谷戸底部を活用した自然型雨水調整池を新設することにより約4,200 m³の貯留を図る。

【自然型雨水調整池計画図】



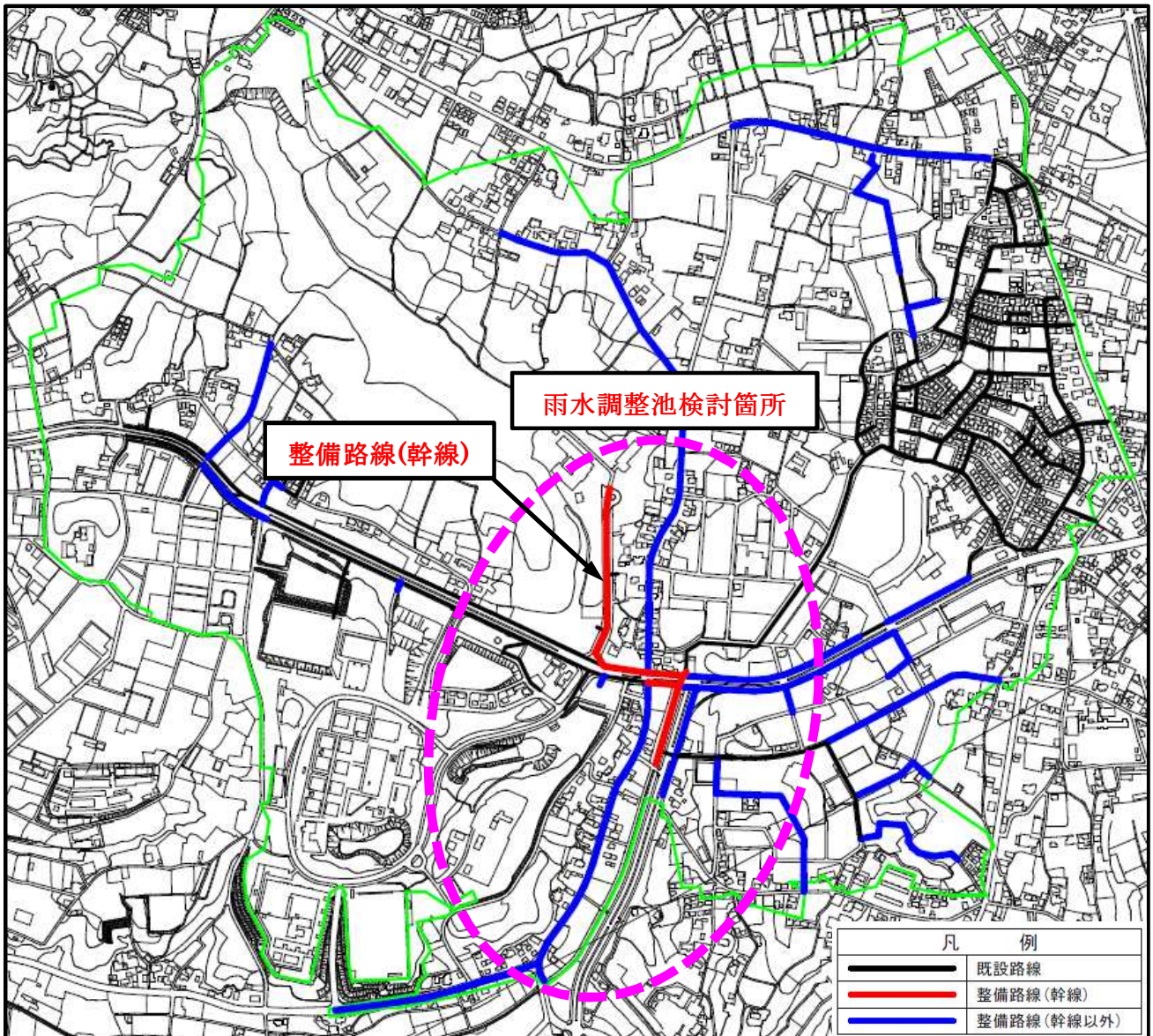
[その他の雨水調整池新設]

用地等の条件から地区内での貯留が困難な排水については、浸水範囲に近接する適地に新たな雨水調整池を設け貯留を図る。

[雨水幹線及び雨水管の整備・改良]

雨水調整池の稼働に伴い、路面排水を集め雨水排水を効果的に調整池に取込むことを目的に雨水幹線及び雨水管の整備・改良を図る。

【雨水調整池・雨水幹線等計画図】



第3節 減災対策

減災対策は、路面排水の排除や地区外からの排水遮断などにより、浸水被害の軽減を目的とした対策である。

また、既存施設的能力を有効に発揮できるよう維持管理作業を併せて行う。

[路面排水の排除]

藤沢慶応前郵便局周辺などの低地部で発生している浸水は、地形的に高台で降った雨が路面排水として道路上を流れ集まることが原因であるため、流下経路や浸水箇所において道路側溝の増設や改良などを講じ、積極的に路面排水を雨水管に取り込むための対策を図る。

[地区外からの排水遮断]

県道藤沢厚木線と県道菖蒲沢戸塚線が接する交差点は低地部であり、地形的に周囲からの路面排水が集まり浸水が発生しているが、雨水管や道路側溝等の整備状況から一色川排水区の雨水が小出川排水区に流入しているため、施設の改良により対策を図る。

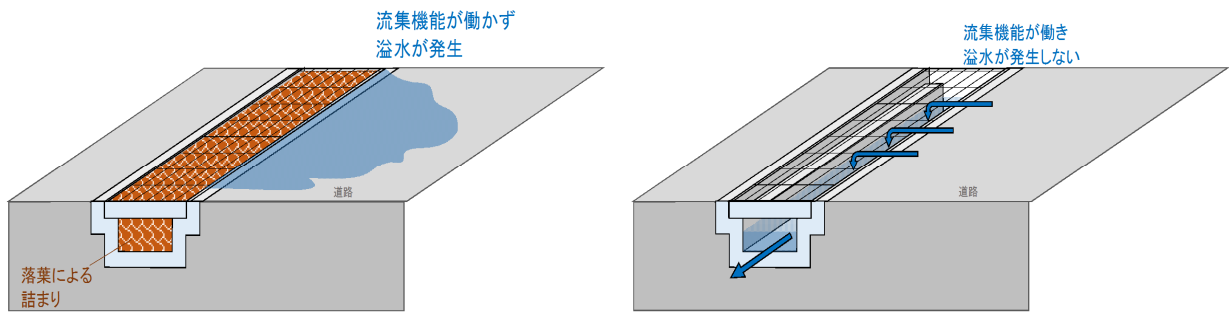
【対策箇所平面図】



[水路・側溝の維持管理]

健康と文化の森地区周辺には多くの農地や山林が存在しており、降雨時は多くの土砂や落ち葉が路面排水に混入し、雨水排水施設に流れ堆積することにより施設の能力が低下するため、定期的な維持管理を徹底する。

【側溝の維持管理イメージ図】



(左：対策前 ・ 右：対策後)

【健康の森水路】



【側溝の詰まり】



第4節 全体計画

浸水対策は平成29年度から実施するものとし、着手から概ね4年を第一段階、それ以降を第二段階として段階的に対策を推し進める。

[計画期間]

【計画工程表】

対策種別	平成29年度着手 第一段階【概ね4年】	第二段階【5～15年】
防災対策	自然型雨水調整池新設(概ね3年間) 事業費 0.9億円(一般会計)	
	既設調整池改良(概ね3年間) 事業費 0.5億円(一般会計)	
	雨水調整池新設(概ね8年間) 事業費 23.5億円(一般会計)	
	下水道事業計画策定(概ね3年間) 事業費 1.1億円(下水道特別会計)	雨水幹線及び雨水管の整備・改良(概ね5年間) 事業費 19.7億円(下水道特別会計)
減災対策	路面排水の排除(概ね1年間) 事業費 0.2億円(一般会計)	
	地区外からの排水道断(概ね1年間) 事業費 0.1億円(一般会計)	
	水路・側溝の維持管理(継続的に実施)	
河川対策	神奈川県施行 整備計画では概ね30年間要すると示されている。	

[概算事業費]

防災対策	雨水調整池等整備	24.9億円(一般会計)
	雨水幹線(約700m)	
	雨水管(約5,600m)	20.8億円(下水道特別会計)
減災対策	路面排水の排除等	0.3億円(一般会計)
総事業費	一般会計	25.2億円
	下水道特別会計	20.8億円
	合計	46.0億円

健康と文化の森地区浸水対策基本計画

2017年(平成29年)3月策定

発行 藤沢市 都市整備部 西北部総合整備事務所

電話 0466-25-1111(代表)

ホームページ <http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/>